



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42  
カトリック鹿児島教区  
電話099(226)5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行人 末吉卓也  
1部60円年間共1100円

教会のこよみ				
25日	18日	11日	4日	3日
年間第十七主日	年間第十六主日	年間第十五主日	年間第十四主日	聖トマ使徒

真に宣教する小教区になるために

## 教区評議会の招集

糸永司教は、六月二日(水)、教区評議員に対して、教区評議会を招集する旨の文書を送った。

今年十一月二日(火)から三日(水)にかけて、カテドラルで開かれる。今回のテーマは「交流・養

成・秘跡—宣教する小教区になるために—である。開催趣旨とテーマの解説は、本紙三面に掲載。

日程は、十一月二日(火)の午後六時半の交流会から始まり、三日(水)の早朝ミサに続き、午後二時半まで会議。プログラムの詳細は、後日周知する。

## 宣教は友だち作りから

—本土地区班長研修会—

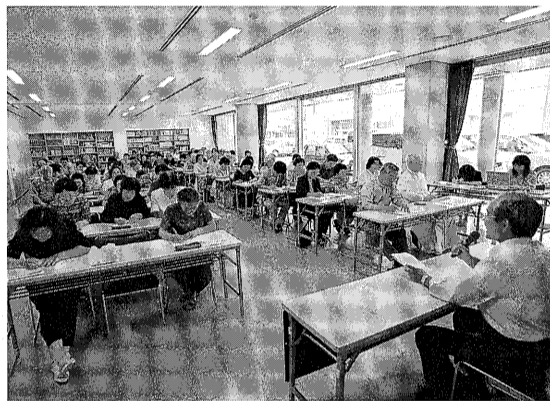
主任)は、班制度は本来、多様性のなかで独自に責任を持って動くための基礎共同体である。班が自分の地

二〇〇〇年から本土地区と奄美地区とで班制度についての研修会が毎年行われているが、今年の本土地区の班長研修会が、六月二十日(日)、カテドラルで開催された。

域に合った方法で宣教活動を行えば小教区も発展すると述べ、具体的にどのような活動が考えられるかを話し合ってもらいたいと今回の研修の趣旨を説明した。

の意見の中からいくつかを挙げると次の通りである。・地域よりもまず身近な家族への宣教を

ない人も来やすいので招待する。・宣教といえば構えてしま



④分団会で熱心に分かち合う  
⑤全体会で各グループの意見を発表

根源的な関係性を取り戻すことが福音宣教

### 三教区司祭合同黙想会

五月二十四日(月)から二十八日(金)まで、大分県湯布院町の黙想・研修の家・司牧センターで那覇・大分・鹿児島教区司祭の合同黙想会が行われた。

出席者は四人の司教を含む三十七人。指導司祭は、カメル修道会管区長の中川博道神父。

世界の急激、全般的、深刻な変化の中で我々はカトリック者として、また司祭としてのアイデンティティをこの数十年失ってきている。昨年、カルメル会の世界総会において決議された総会文書の「本質的なものからの再出発」というテーマを紹介しながら、現在は危機であるが、本質的なものを捉え直すチャンスでもある、として人間の本来とは何かを創世記に拠りながら説明した。創世記は、

人間を ①神 ②大地 ③兄弟という三者との関わりを生きる者として捉えている。人間が神との関わりを断ち切って自分を世界の中心にして生きるとき、根底からの自己の崩壊が始まる。神との関係のズレが、大地との、また兄弟との関係のズレにつながっている。悪霊や誘惑は関係性を破壊しようとするものである。あらゆる根源的な関係性を取り戻すことが福音宣教であると述べた。

人間の本来についての深い研究、また、祈ること、聴くことについての説得力のある話に参加者は大きな感銘を受けた。信仰者として、また、司祭として確信をもって福音を宣教する意欲を与えられた。

### 地区財務委

去る五月二十三日(日)午後、教区本部において教区司祭地区(教区司祭が担当する本土地区の十二小教区と準小教区)の財務委員会が開催され、昨年度の地区会計決算と今年度の予算案を審議。決算と予算案は、会計部の説明後、それぞれ質疑応答の後承認された。説明によれば、当会計の経常収入の四二%を司祭寄付金が、二一・六%を献金収入(地区費と献金分納金合計)が、五・五%を祭儀収入が占める。司祭の老齢化に伴い、司祭寄付金は今後減少せざるを得ない。



### 中学カリキュラム委

教区教会学校カリキュラム委員会は、六月十二日(土)、鴨池教会で中学生の会合を開いた。参加者は、大松、泉、末吉師の各委員のほか、委員会からの協力を求められた鹿児島市内の教会に所属するシスター一

各小教区での中学生へのカテケジス(要理教育)の現状や、カリキュラムに入れたことなどが話された。話し合いの結果、長崎教区立要理教育研究所が作成した「ふっかつ」三分冊(サンパウロ発行)を教科書として用い、それに基づいたカリキュラムを作成することを決めた。また、十月二

十四日に開催されるカテキスタ研修会の内容についても話し合われた。今年から実施されている小学生のカリキュラムをどう活かすかについて、実際の展開の仕方方をグループワークで行ったり、実践例を発表したりしてはどうかという考えが出され、その方向でプログラムを検討していくことにした。

### 開催趣旨

一、分かち合いを通して小教区の活性化を

今回の教区評議会には、何か特定の議題を審議して決定するというようなことではなく、各小教区が真に宣教する共同体になるために何が出来るか、何をすべきかを、自分たちの問題として、具体的に、また前向きに分かち合うことを通して、各小教区の活性化を追求します。従って、今回の教区評議会は各小教区における準備の分かち合いが重要になります。教区評議会では、各小教区での分かち合いの成果を教区レベルで分かち合うのです。なお、分かち合いのまとめはもちろぬ、教区への要望が出てくれば、それらは教区の司牧方針に反映されるでしょう。

二、教会の教えと指導に基づいて

今回の教区評議会における分かち合いは、世間的な常識や人間的な感情論ではなく、あくまで教会の教えと教区の指導方針に基づいて行われます。従って、これまでの慣習にとらわれず、次のような教区資料を通して示された主キリストのご意向に素直にこたえて、小教区の刷新に取り組む姿勢を大切にします。

三、参考資料  
参考すべき教区資料は次の通りです。ぜひ目を通

①『小教区とわたしたち』  
その理解と刷新―  
②二年教区目標の解説記事・別紙

③『信徒のための信仰生活指針』(二〇〇三年教区目標解説文書・全教区民に配布済み・別紙)

④『教会の教えを学び直しましょう』(二〇〇四年年頭教書・別紙)

⑤『成人の要理教育』(国際要理教育評議会編・別冊)



### 教区評議会 趣旨とテーマ

## 交流・養成・秘跡

### ― 宣教する小教区になるために ―

#### テーマ解説

福音宣教は教会の基本的な使命です。小教区は地域の福音宣教センターです。鹿児島教区は来年、司教区昇格五十周年を迎えます。この機会に、小教区の活性化を通して教区一体となった宣教態勢を整えることは、半世紀を経て成長した司教区の証として、最もふさわしい記念になるのではないかと思います。また、去る一月と四月の司教評議会が小教区の活性化をめざす交流・養成・秘跡を来たる教区評議会のテーマとして司教に答申したことは、まさに時宜を得たものと言わなければなりません。この三つは宣教する小教区を支える重要な基本だからです。

#### 一、交流

教会は交わりです。洗礼の秘跡により「キリストに結ばれて聖とされた」(フィリップ書一・一参照)わたしたちは、キリストを頭とし聖霊を魂として一つの体に結ばれ、日ごろから相互愛の交わりを生き、使命を共有しています。しかし、わたしたちは身体を持っていきますから、頭や心だけの交わりに留まらず、身体ごとの直接の出会いや交流が重要になります。

#### 二、養成

このほか、班制度における交流を大切にします。班制度は底辺からの信者共同体、いわゆる「教会の基礎共同体」であって、地域の生活に密着した信者の交流と地域宣教を目指しています。いわば、ともに

#### 三、秘跡

秘跡は人間と世界を変えます。例えば、聖体の秘跡の場合、司祭たちが叙階の秘跡の権能によってパンとぶどう酒をキリストのからだに血に変えるように、聖体は洗礼によってキリストに結ばれた信者をさらにキリストに似たものに変え、こうしてキリスト化された信者は世界を神の国に変えるのです。わたしたちは秘跡の力を本心に信じているでしょうか。

#### a. 小教区における通常の基本的な出会いと交流は、特に主日の小教区ミサにおいて行われます。主の復活を記念する日曜日ごとに小教区の全共同体がミサに集い、「集まり」である教会を見える形で表現し、意識し、固めるのです。

なお、司教区昇格五十周年を前に、教区司教と司教区が何であるかを正しく理解する必要があります(主たる参考文献は第二パチカン公会議の『教会憲章』第三章と『教会における司教の司牧任務に関する教令』、および教会法第三八一条〜四〇二条)。

小教区はまた、互いに教区の細胞としてこれを形成する他の小教区にも開かれて、時折交流し、より広い教会を体験し学び合うことは、大いに奨励されることです。

人間は生涯学び続けま

祈り、ともに学び、ともに活動する小共同体です。

要な交流の手段です。教区本部からの情報ばかりでなく、各小教区から発信される豊かな情報が紙面に掲載されることを通して、各共同体は教区レベルで互いに交流し、学び合います。

分に応じて教会維持費を負担するのも教区民の交わりの証であり、助け合いの重要な手段になります。

c. さらに小教区は福音宣教センターとして地域社会に開かれ、人々との交流に努めなければなりません。小教区もその基礎共同体である班も地域の人々に関心をもち、一人でも多くの求道者を求め、信者を増やして神の国を広げる使命があるのです。そのため、あらゆる方法を駆使して福音の招きを告げ知らせよう、祈りと工夫が必要になります。

また、宣教活動の力の源は特にミサです。ミサを中心とする典礼はキリスト教的な生活と活動の「源泉かつ頂点」(教会憲章一項目参照)であるといわれるのです。それで、形式的な生ぬるい典礼参加ではなく、真に生き生きとした元氣の出るミサにするために何をすればよいか、みんなで分かち合います。

### 今月の暦

(7月)

- 2日(金) 新約聖書ラゲ訳出版(一九一〇年)
- 3日(土) 聖トマ(松森孝郎神父・頭島 光神父)
- 4日(日) 奄美大島地区信徒研修会・名瀬聖心教会・13時〜16時
- ▼国頭教会献堂記念日(一九六五年)
- 8日(木) 希望の星学園落成(一九六六年)
- 9日(金) 竹山 昭神父叙階記念日(一九六七年)
- 11日(日) 鴨池教会堅信式・9時
- 13日(火) 司教評議会総会・教区本部・10時
- 14日(水) 教区本部会議・教区本部・10時
- 15日(木) 浦上教会献堂記念日(一九八四年)
- ▼紫原教会献堂(一九七一年)
- ▼レデスマ神父叙階記念日(一九五六年)
- 21日(水) ユゼビウス神父命日(一九七九年)
- 22日(木) レオ税所七右衛門受洗(二六〇八年)
- 25日(日) 信仰養成委員会・教区本部・14時
- ▼聖ヤコブ(福岡英雄神父)
- 8月
- 4日(水) レヒナ神父叙階記念日(一九六〇年)
- 6日(金) カトリック平和旬間始まる・15日まで
- 15日(日) ザビエル上陸記念祭・祇園之洲・16時

### ローマ・アシジ・ルルドなど訪問 古仁屋教会主催で巡礼

五月十九日から二十八日まで古仁屋教会主催の聖地巡礼が行われた。

島からの三人を含む全国からの総勢十四人でルルド、ヌベール、パリ、アシジ、ローマと巡った。今年は無原罪の御宿りの教義が信仰箇条とされ百五十年目、また聖ベルナデッタの列聖七十年に当たった。

一行はルルドのグロットでのミサを皮切りに、アシジの聖フランシスコ大聖堂献堂七百五十周年記念ミサ、聖フランシスコの墓でのミサと大きな恵みに浴した。またローマ在住の三宅さん(名瀬市出身)のガイドのもと教皇謁見、四大バジリカ、十二使徒大聖堂など精力的に巡った。

巡礼を振り返って西本神父は「あまり日本人巡礼団が行かない教会も巡ることができた。またルルドでの沐浴場で車椅子の男の子を抱いて沐浴する若い父親の姿が心に焼き付いた。子供の病氣は癒されなかったが、この親子にとってルルドに来ることができたことは大きな恵みなのだろう」とその感動を語った。



# 感謝をテーマに北薩大会

## 大口明光学園会場に心温まる雰囲気

神への感謝をテーマにしたカトリック北薩大会が六月六日(日)大口明光学園であった。今年大会には北薩地区の五つの小教区から約百八十人の信者が集い、糸永司教のミサで教区の一致のしるしにあずかり、また沼野尚美さん(六甲病院緩和ケア病棟チャプレン)の講話で心の安らぎをもらった。



温かい雰囲気いっぱいだった北薩大会

毎年、各小教区を巡って開催される「カトリック北薩大会」。地域信者の霊的成長と親睦に欠かせない大会となっており、今年開催担当となった大口小教区では、明光学園の協力で温かい雰囲気の漂う大会に仕上げた。

午前十一時から、各小教区を巡って開催される「カトリック北薩大会」の歴史とこの北薩の地域の宣教に邁進したレデンプトール会の活躍を振り返った。また佐世保で起った小生による殺傷事件を取り上げ、生命の神秘や対話についても触れ「子供が大きなストレスを抱える現代こそ、それを和らげる家庭の役目が問われる」と家庭の働き的重要性を訴えた。ミサ後の昼食時間には、大口明光学園吹奏楽部の演奏が

### ザビエルさまの散歩道

私が中学時代に出合った言葉が二つあります。その一つが「たとえ全世界をもうけても、その魂を失ったならば何の益があるのか」(マタイ十二)です。しかし特別にあの日、あの時に聞いたという記憶がありません。いつの間にか私の心の中にしみ込んでいました。そしてその言葉が聖フランシスコ・ザビエルの人生を変え、苦難と栄光への道を開かせたことを...

日本にキリストの愛と平和を伝えるために、ザビエルは第一歩を踏み入れた最初の地、この鹿児島に一年間滞在し、約百人の人々

### 出合ったみ言葉

ザビエル渡来四五〇年祭(一九九九年十月八日)から五年の歳月が過ぎようとしています。ほんの二年前の出来事だったような、自分と昔の出来事だったような、そんな気がしています。けれど静かにしっかりとその想いは燃え続

ザビエル渡来四五〇年祭(一九九九年十月八日)から五年の歳月が過ぎようとしています。ほんの二年前の出来事だったような、自分と昔の出来事だったような、そんな気がしています。けれど静かにしっかりとその想いは燃え続

あったほか大口教会信者たちによるフラダンスの披露もあり、大きな拍手が会場に響いた。

その後は沼野尚美さんの講演があった。沼野さんはホスピスで神と出会うて逝く人々の姿を紹介し、「キリストの救いに触れて

シスターたちもお勉強  
奄美・本土で総会や研修会

修女連奄美支部総会  
五月十六日(日)、名瀬カトリックセンターで鹿児島教区修道女連奄美支部の総会が行われた。テーマは「二〇〇四年を聖霊とともに。奉獻生活者として、神の畑の働き手として」。同支部では、毎年霊的糧を得ようと講師を呼び、研修も行っている。今年、講師に招かれたのは霊性センタ

が洗礼を受けたと言われています。ザビエルが去った後、確かな歴史の中には見えないけれど神様だけがご存知の歴史の中に、もしかすると人知れずその愛のために殉教した人々があったのではないかと思いを馳せることがあります。

一五四九年八月一日、聖母被昇天の日には薩摩の国の真夏の暑い日差しの中に降り立った聖フランシスコ・ザビエル、その熱き想いを思い起こし、ともに祈り、平和を願い、キリストの愛を伝えるために、ザビエル上陸記念祭に参加なさいませんか。(女性信徒)

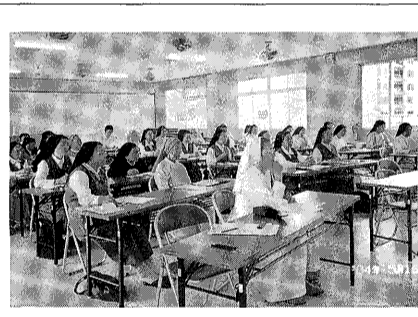
一五四九年八月一日、聖母被昇天の日には薩摩の国の真夏の暑い日差しの中に降り立った聖フランシスコ・ザビエル、その熱き想いを思い起こし、ともに祈り、平和を願い、キリストの愛を伝えるために、ザビエル上陸記念祭に参加なさいませんか。(女性信徒)

本心に安らぎを得た人の心は自由だ」と話し、自分の心と向き合うことの必要性を説いた。講演を終えた沼野さんは「心温まる大会だっただけで、明光学園の子どもたちも素直でかわいい」と感想を述べた。

シスターたちもお勉強  
奄美・本土で総会や研修会

「せせらぎ」のチーム司祭として活躍しているイエズス会の植栗彌神父。集まった四十人のシスターたちは、午前と午後、二回にわたる講話を聞いた後、グループに分かれて分かち合い、その後、全体会で発表、また講師から示唆を得た。

教区修道女連盟では、五月二十三日(日)、ザビエル教会一階ホールで研修会を開催した。六十人出席。今年、同研修会の指導にあたったのは林尚志神父(イエズス会・下関労働教育センター)で、テーマは「現代社会に生きる修道女のあり方」。「ようやく一人の人間の尊厳と向き合おうとする時代が来た」と語る林神父はエネルギーシナ語りで、社会問題を取り上げながら修道者が歩むべき道を示した。



講話を熱心に聞く(奄美)

**<KABAYAN SEKSIYON>**  
"ANG 7 SAKRAMENTO NG SIMBAHAN"

Mga Kababayan, ang tatalakayin ko sa inyo ay ang tungkol sa 7 sakramento ng simbahan. Itinatag ni Kristo ang mga sakramento ng bagong batas. Mayroon 7 sakramento: Binyag, kumpil, komunyon, kumpisal, pagpapahid ng langis sa may sakit, pagpari at ang pag-iisang dib-dib. Ang 7 sakramento ay may mahalagang parte sa buhay kristiyano, nagdadagdag at nagbibigay buhay, nagpapagaling at may misyon sa pananampalataya sa buhay kristiyano. Mayroon itong pagkakatatulad sa natural na buhay at sa ispirituwal na buhay.

Alam ba ninyo mga kababayan ang kahalagahan ng 7 sakramento sa buhay natin? Mahalaga at kailangan natin ang mga sakramentong ito, dahil tayo ay mga taong mahihina. Nagbibigay ito sa atin ng lakas at tibay ng loob.

Sa tulong ng mga sakramentong ito, mas lalo tayong napapalapat sa Diyos at ang Diyos sa atin. Kaya sa katuwiran na ito, bawat oras at bawat lugar mas lumalapit ang Diyos sa tao. Tinatawag ng Diyos ang tao na hanapin siya, kilalanin siya at mahalal siya ng buong lakas. Tinatawag niya ang lahat ng tao na nagkakatulad at pinag-hati ng kasalanan, na magkaisa bilang Kanyang pamilya, ang Simbahan.

Kaya sa pamamagitan ng mga sakramento, ang lahat ng tao ay pinag-iisa ng Diyos. Bigyan natin ng halaga ang mga sakramento na itinatag ni Kristo na ating Panginoon. Kaya sa susunod na pag-uusapan natin ay ang tungkol sa sakramento ng Binyag. Hanggang sa muli mga Kababayan.

Patnubayan sana kayo ng Poong Maykapal.

Fr. Dino A. Orolfo

### 侍者会に新しい仲間 大熊小教区

大熊小教区(美島春雄神父)では、六月六日(日)浦上教会で侍者会入会式を行った。四回の養成を受けてこの日晴れて侍者になったのは六人



侍者会の決まりを読み上げる

の子どもたち。ミサ中に行われた入会式では、美島春雄神父が、六月六日(日)浦上教会で侍者会入会式を行った。四回の養成を受けてこの日晴れて侍者になったのは六人

出水の大山さん  
特別聖体奉仕者に

五月九日 付けで出水教会の大山きよ子さん(聖母カテキスタ会)が、在宅病人に聖体を届ける特別聖体奉仕者に任命された。大山さんは八代市出身として頑張って欲しい」と励ました。

司教から十四人が堅信の恵みを授かった。福音朗読後、祭壇前に歩み出た糸永司教は優しく語りかけるように受堅者と集まった信者たちに、堅信の恵みについて訓話を行った。糸永司教は「堅信によって大人の信者となった者には、相互愛と福音宣教の実現という責任がある。このことを心に刻み込んで教会共同体の一員として頑張って欲しい」と励ました。

父による侍者についての訓話がなされた後、一人ひとりに侍者服が手渡された。それを受け取った子どもたちはその場で着衣し、その後、ミサや教会学校への出席について規定された「侍者会の規則」を読み上げ、その後感謝の祭儀の準備に加わった。ミサ後は信徒館で保護者たちの手作りのカレーのお祝いを受けた。

六月十三日(日)、堅信式があり七人がその恵みに浴し、受堅者たちは糸永司教から「愛しあうこと、キリストを証しすること、信仰を育てるために教会の教えの勉強を続け、聖体の秘跡にあずかることの大切さ」を学んだ。



カレーのお祝いを受けた。

# レオの受洗の日を前にして

川内教会 石田幹男

七月二十一日、薩摩の殉教者税所七右衛門は洗礼を受け、レオ(受洗名)になった。

住み慣れた都城から本郷家(殿様)について川内に来た。もともと川内にいた武士はこの人たちに使われる身、その中に数人の信者がいた。レオは、その信者たちに会い、キリスト教に出会った。自ら見つけたのではない。

平佐から京泊まで通ったか? 神父が時々、平佐に来ていたと記録がある。そこで勉強したか? 十四、十五キロの道程。当時、禁教令が出ており薩摩にも力が及んでいない。詳しい資料はないが、その時要理の勉強を始めたという。凄いいものを感じる。家族、周りの武士などの心理的圧迫。レオは神さまからの召命を感じたのか、ますます進んだようだ。

家の当主は頭、家族は当主に従うものであった。当主は家族を守る責務を負っている。殿様に対しても同じ武士の仲間にも。すべてを捨てて神に従う決心をした。今の時代とは違う。

私事だが、三十九年前、洗礼を受けるとき両親に一大決心して話した。「この家は継ぐことはできないぞ」「財産もない」と言

われ、学校だけは出してくれと頼んだ。小さいときから寺に預けられ、長男で寺の檀家総代の家に育った。

すべてをどこかで捨てる。レオとは同じと思わないが、一大決心。レオの受洗の日を目前にし、いろいろと考えている。

教区の誇り殉教者レオ税所七右衛門の列福のために一緒に祈って欲しい。川内教会ではミサ後、毎週この祈りを唱えている。

## レオ税所七右衛門の列福を求める祈り

父なる神よ。救いのみ業にあずかるため、あなたがお招きになったレオ七右衛門は、信仰の光に照らされて恵みの時を知り、殉教者としていさぎよく処刑されることを望み、あなたの招きにこたええました。殉教者ゆかりの地で信仰に召されたわたしたちが、彼に倣って恵みの時を知り、喜びをもって、あなたの国を証していくことができるようお助けください。レオ七右衛門を福者の列に加えて世界に示し、その取次ぎによって、多くの人々に救いの恵みが与えられますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

殉教者の元后マリア、わたしたちのためにお祈り下さい。

## 集いのお知らせ

- ◇ 第25回霧島国際音楽祭教会コンサート「パロックのひびき」7月23日(金)19時開演 ザビエル記念聖堂 指定席3,000円 自由席2,500円(一般) / 1,000円(小中高生)
- ◇ 黙想会 7月31日(土)14時~8月1日(日)16時 マリア山荘 講師:キップス神父(臨床パストラルケア教育研修センター所長) 申込:TEL099-264-2694(松山) / TEL0995-63-1943(西)
- ◇ カトリック教師の会「研修会・黙想会」8月7日(土)15時~8日(日)正午 マリア山荘 「他人と自分との関係を見つめようー愛するとはー」 指導:西本仁史神父「講演」「分かち合い」「CHR(クリエティブヒューマンリレーションズ)の実践」 参加費:3000円 問合せ 岩崎正幸(ラ・サール高校) TEL099-268-3121 eメール iwazaki@ml.lasalle.ed.jp
- ◇ 大口明光学園一日体験入学 7月10日(土)13時~16時 対象:小学6年生・中学3年生 申込・お問い合わせ 0995-22-0609
- ◇ 集中内観(信仰の心を育てる祈り・修業) 8月16日(月)10時半~21日(土)正午 マリア山荘(Tel0995-58-2994) 指導:岡俊郎神父(Tel0997-53-7456) 費用:1泊6,500円(3食付・但し初日は7,500円) / 日帰り研修2,000円 ※04年内観 予定 9月19日~25日・11月21日~27日・12月18日~23日

## 女性信徒の使命を考える

### 日力連創立30周年長崎大会感想

水之浦悦子

五月二十一日から二十三日まで、浦上教会で七百七人近くの参加で開催されました。「平和ーわたしたちから始まる地球の平和」のテ

ーマで始まり、日力連の歩みや活動報告があり、日力連の目的を確認し合いました。

全国の女性信徒の皆さんと同じ目的で繋がっている喜びを強く痛感し嬉しくなりました。

高見三司司教さまはじめ、長崎教区の皆さまの温かい受け入れに、このときを感謝のうちに過ごすことができました。

各小教区訪問という形での分散会(城山教会)も初対面でありながら、時間が足りないくらいに分かち合いができました。全国から同じ信仰のもとに集まり、時を同じくし語り合えたこと、私自身の信仰も確認できたことは、神さまからの素晴らしいお恵みでした。私たち女性信徒の会も、女性としての特性を生かしながら歩み続けたいと思います。

現在、女性信徒の会は日力連に年会費一万円を送金しています。この会費を通じて、私たち一人ひとりが世界の貧しい人々のために、会費が役立つことを深く意識し、協力していきたいと思っています。

最後に、私たちを長崎の地に導いて下さった方々に深く感謝します。

## 文芸

### 短歌 (思川短歌会作品)

阿久根 聖園老人ホーム一同  
永遠のみ国をめざし主の御名によりて集えり阿久根の丘に  
司祭なるあなたによりてみ言葉を食べて生き生き今日も感謝で

(評) 思川短歌会創設の趣旨に合う歌。祈りの集いを明るく表現した尊い佳作です。次作を期待したい。

阿久根 中津濱フサエ  
若き日の思ひ出たどり老人春を日々の祈りに空しく託す

(評) 「老人春」の表白が、一首の生命となつている健勝歌。

大口 森 博伸  
とらわれて盲いたころの愁いな

りみことばの書にロザリオを置く  
(評) 信仰を、そして祈りを問いつめる作者が結句に出ている。

鹿見島 春山マリ子  
恋心片思いでも賛美する消えそいで消えぬ仄かな灯

(評) 上の句で、素朴に人生を詠んだ尊い歌、結句で深遠な祈りを表現したのがよい。

鹿見島 前田儀子  
しだれ桜ゆたかにしだるる川べりに原爆ドームは霞んで見ゆる

(評) 結句の口語的な表現が一首を豊かにした。

古仁屋 豊島忠司  
手に取れば平成九年の硬貨なり瑞穂国の稲を表せり

(評) 「瑞穂国の稲」の表現がよい。

出水 遠竹睦郎  
経済学学びし母校のビデオ観て心

和みぬ梅雨の一夜に  
(評) 和やかな一夜の作者が詠まれている、よい。

名瀬 林 明子  
あわせあう手と手のひらにともしびがともったようよるこびごころ

(評) 四句の字足らずが、歌意を大きくして親しみやすい歌。

鹿見島 田平新太郎  
泡沫の運ぶ落葉の小舟見ゆ思川河口は夕暮の刻

鹿見島 本城 愛  
雀籠ゆらゆらゆられて泊り客喜々と鳴き出水の雀籠帰り

(評) 愛鳥は平和の礎であること、的確に詠んだ句。作者の優しさが感じられてよい。

鹿見島 龍門司真人  
美しくなるへちま水女を呼ぶわが道は母と歩いた丸木橋

### 俳句 (思川俳句会作品)

鹿見島 春山マリ子  
雨上り五色の虹の掛かりけり  
イエス抱く優しき瞳聖マリア

(評) 五色の虹の掛った空が浮かんできます。マリアさまの笑顔も



世界に通じている日力連、その歴史も素晴らしいものです。世界のカトリック女性は一九〇一年(明治四十年)「あなたたちは、地の塩である」というキリストの言葉で手を取り合うために、世界の

### 募集します!

教区報では掲示板(声欄)を新設し、皆さまの活気あるご意見を紹介する予定です。投稿下さる方はご意見を四百字程度にまとめて編集部までお送り下さい。締切は毎月15日です。